

2. 活動報告（注1）

番号	4					
テーマ	らしさの探求（積む）					
実施回数・期間 （注2）	令和7年4月～令和8年3月 年間通して					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	11人	人	人	人	人
活動内容 （注3）	0歳児から1歳になって、とにかく「積む」姿が多くみられた。積むことの何がそんなに子どもたちを魅了しているのだろう。様々な素材を準備することで子どもたちはどのように反応するのだろう。を子どもが繰り返し楽しんで集中して行っている活動から展開させた。詳しくは報告書にて。					
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。					
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 夏ごろまでは、個人で積むこと、または積んであるものを崩すということを生き生きと行っていたが、見守りの中で十分したいことが満たされると一緒に積むことを楽しむ姿が見られた。かかわりばかりに注力せず、個々の活動も声かけすることにも配慮した。					
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。					
	※記録をどのように行ったか 主に写真と文章で行った。					
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。					
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 個々が自分の活動に満足できる環境を意識した。（集中して取り組んでいる子どもを邪魔しないよう他の遊びを提供したり、一緒に見守る声掛けをしたり）					
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。					
	※振り返りの実施方法 その日に感じたことを伝えあい、クラス会議で子どもの育ちや、改善点など具体的な話をし、報告にまとめた。					
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	※教諭や保護者等への共有方法 掲示板に報告書を掲示し周知をした。					
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。						
※継続的な実施のための工夫 子どもの育ちを振り返ることにより、次にすべきことが見えてくるが多かった。振り返りを丁寧に行うことで新たな問いや、環境設定につながった。						

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】

らしさの探求(積む・重ねる)

【問いを考える】

積むを楽しむ

思ってるかたちに積むにはどうしたらいいだろう

2. 活動スケジュール

2025年4月～2026年3月

(1歳児10人)

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

1歳児に適した大きさとはめやすさを考慮したブロック、柔らかな素材のmoffn、様々な素材の玩具を用意する。

【探究活動の内容】

牛乳パックのおもちゃをを繰り返し積んでいる姿を見て、ただ積むだけでなくブロックのようにくつつくものだと遊びがどのように発展するのか。触れたことのない道具だとどのような反応になるのか、繰り返ししている遊びを発展させていく

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

【5月】はじめは個人で積むことを楽しんでいたが、保育者が保育室にあるものを積んで置いておいたところ、いろんなものを積んだり、壊れても繰り返し積んだりして、その繰り返しを楽しむ姿が見られた。

【6月】ブロックを出すと、最初は高く積み重ねることをしていた子どもたちだったが、様子を見守っていると上に積むだけではなく、くつついた形を楽しんだり見立て遊びに発展する姿も見られた。

【8月】形のはっきりしたもの出ない不安定なものを積み重ねようとしてあきらめる姿があったので、Moffnを購入子どもたちに提供してみた。保育士が積んでいる姿を見て、不安定ながらも、形が変えられることで積むことができ、満足感につながったようであった。その後、積むや、投げるなどの遊びではなく、何個持てるかに挑戦している子どもの姿が多くみられた。

【1月】たくさんの積むを経験する中で、ただ積むことよりかたちにすることやバランスを楽しむことなど、それぞれの子どもの自分なりの遊びに発展させていた。ひとり遊びで積み重ねていた子どもたちが、友達と一緒に積むことを楽しんでいた。



5. 振り返り

積んで壊れてまた積んでということを夢中で繰り返している1歳児の積んでみたいという気持ちを存分に満たしてほしいと思い、ブロックや、moffnなどを提供してみた。子どもたちは予想をしていない行動を次々と見せてくれる。柔らかいmoffnはたくさん持てるということが楽しく、全部を持てたときの表情は自信に満ち溢れていた。大人が子どもの遊びを発展させたいと考えても、子どもの発想や、楽しみ方にはかなわないとつくづく思った。1年を通して、子どもたちは「積む」ということに対して教えたり、声掛けをしなくてもたくさんのもをを積む姿が見られた。空間認知等の発達の途中であるということもよく理解ができた。各々で積んでいたものを集団で積むようになった過程にも人とのかかわりの力が育っているということが見て取れた。モノや、環境の新しい出会いを繰り返してきける機会等環境を整え、子どもの遊びを発展させて行きたいと思った。